



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

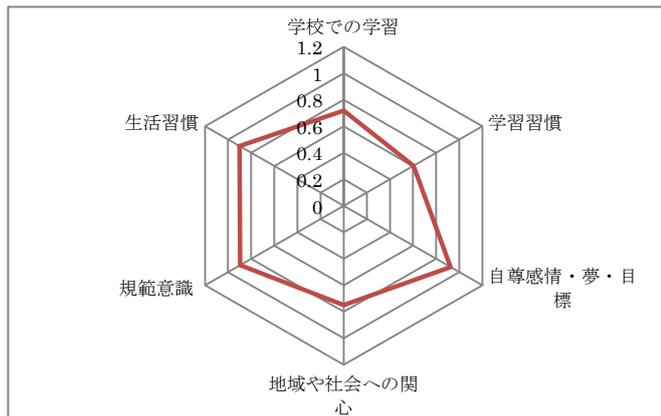
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

| カテゴリー | 学力調査の分析(傾向や特徴) | 全国平均正答率との比較 |
|-------|---|-------------|
| 国語A | どの分野においても、基礎基本の定着が課題である。特に漢字や古文の現代仮名遣いといった基本を継続的に反復して学習する必要がある。 | 下回っている |
| 国語B | 文章や話の意図を捉え、相手に的確に伝わるように書くことに課題がある。記述式の問題に関しては無回答率が高く、書くことを習慣化する必要がある。 | 下回っている |
| 数学A | どの分野においても基礎基本の定着が課題である。関数の問題に関しては無回答率が高かった。 | 下回っている |
| 数学B | どの分野においても平均を下回っている。難しい問題に関しては、無回答率が非常に高かった。 | 下回っている |
| 理科 | 全体的に正答率が平均より下回っている。思考力を問う記述問題では無回答率が非常に高かった。 | 下回っている |

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 学校での学習においては、自分たちで立てた課題に対して、自分から取り組んでいた、また話し合う活動を通して、自分の考えを深めることができたと答えた生徒が昨年度よりも増加しており、昨年度の反省を生かした教師の授業改善、生徒の意欲の向上が見られる。しかし、家で計画立てて勉強をしている、家庭学習を1時間以上行っている生徒は全国平均を下回っている。家庭学習を改善することで、より一層学力の向上が期待される。
- 自分にはよいところがあると答えた生徒が昨年度よりも増え、全国平均とほぼ同数であった。学校行事等の取り組みを通して、一人ひとりのよいところを認め合えるように指導したことの成果である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のため

の重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・一昨年度より実施している基礎学力向上週間を、本年度は毎月実施している。定期考査とリンクさせ、繰り返し学習することにより、基礎的な学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の習慣が学習意欲に繋がることを踏まえ、週末課題や1日1ページノート等の取組の充実を図る。